

# 指令！ 地震の基礎知識を学ぼう！

三重県にも  
巨大地震が  
発生していた！

1944(昭和19)年12月7日、熊野灘を震源とする「東南海地震(マグニチュード7.9)」が発生。はげしい揺れとともに、地震発生後短時間で熊野灘沿岸部を中心とした市町村に最大9mの大津波が襲いかかり、甚大な被害をおよぼしました。  
(三重県における津波被害:死者144人、負傷者55人、行方不明445人、家屋流失1,918棟、家屋全壊832棟、家屋半壊585棟)

参考:三重県地域防災計画 添付資料より



1944年東南海地震の津波で変わりはてた町のすがた（現在の尾鷲市）  
写真提供／太田金典氏

## マグニチュードと震度

地震の強さを表すのがマグニチュード(M)で、ある場所がどれくらい揺れたのかを表すのが震度です。電球に例えてみると、図のようになり、地震もこれと同じで、一般に震源から遠くなればなるほど揺れは小さくなります。



### ◆地震による揺れと被害

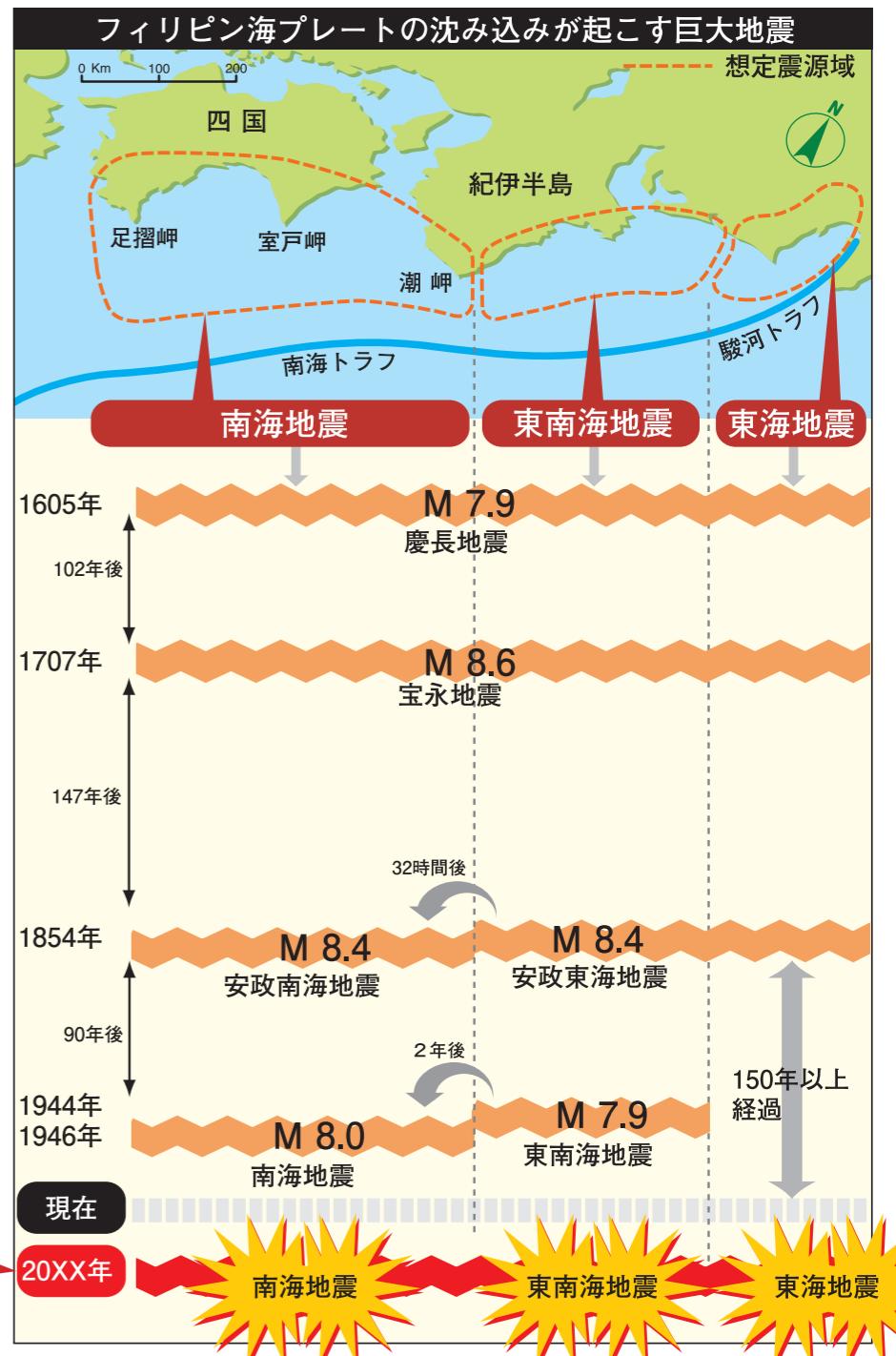
震度階級	人間	屋内の状況	屋外の状況	木造建物
弱 5	●大半の人が、恐怖を感じ、物につかまりたいと感じる。	●電灯などのつり下げ物は激しく揺れ、棚にある食器類、書棚の本が落ちることがある。	●窓ガラスが割れて落ちることがある。	(耐震性低) ●壁などに軽微なひび割れ・亀裂がみられることがある。
	●大半の人が、物につかまらないと歩くことが難しいなど、行動に支障を感じる。	●棚にある食器類や書棚の本で、落ちるものが多くなる。	●道路に被害が生じることがある。	(耐震性高) ●電柱が揺れるのがわかる。
強 6	●立っていることが困難になる。	●固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。	●窓ガラスが割れて落ちることがある。	(耐震性低) ●壁などに軽微なひび割れ・亀裂がある。
	●立つことができず、はなないと動くことができない。	●ドアが開かなくなることがある。	●壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。	(耐震性高) ●壁などに軽微なひび割れ・亀裂がある。
7	●揺れにほんろうされ、動くことができず、飛ばされることもある。	●固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。	●壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する建物が多くなる。	(耐震性低) ●壁などに大きなひび割れ・亀裂がある。
		●固定していない家具のほとんどが移動したり倒れたりし、飛ぶこともある。	●補強されているブロック塀のほとんどが崩れる。	(耐震性高) ●壁などに大きなひび割れ・亀裂がある。
			●壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する建物がさらに多くなる。	(耐震性低) ●傾くものや倒れるものがさらに多くなる。
			●補強されているブロック塀も破損するものがある。	(耐震性高) ●壁などのひび割れ・亀裂が多くのある。
				(耐震性高) ●まれに傾くことがある。

気象庁震度階級関連解説表(抄) 平成21年3月

◆地震体験車を使用したいときの問い合わせ先 三重県防災危機管理部防災対策室 TEL059-224-2189

## 東海地震 東南海地震 南海地震

東海から紀伊半島、四国にかけての太平洋沿岸では、過去海溝型の巨大地震が繰り返し発生し、この地方に大きな被害をもたらしてきました。これらの地震は、想定される震源域の範囲に応じて、それぞれ東海地震、東南海地震、南海地震とよばれています。



三重県では、現在も含めて近い将来、東海地震、東南海地震、南海地震の発生が心配されています。

東海・東南海・南海地震は、それぞれがマグニチュード8以上の巨大地震となると想定されています。

### 発生確率(2010年1月1日時点) と 想定の大きさ(マグニチュード)

- 東海地震……いつ発生してもおかしくない マグニチュード8.0  
三重県内では、揺れの大きいところで震度5強  
津波は、高いところで5m以上
- 東南海地震…今後30年のうちに60%～70% マグニチュード8.1前後
- 南海地震……今後30年のうちに60%程度 マグニチュード8.4前後  
東南海・南海地震同時発生時にはマグニチュード8.6、三重県内沿岸部は震度6強以上、津波は高いところで約9mと想定されています。

東南海地震・南海地震の今後30年内の発生確率は、地震調査研究推進本部の長期評価(2010年1月1日現在)より引用

上記3つの地震が同時に発生する可能性もあるとされています。そのときのマグニチュードは8.7、津波は高いところで約9mと想定されています。